

奥多摩の風



奥多摩

《第37号》

平成27年4月15日

奥多摩観光協会



大澤 新次 画

平成27年度事業に向けて

平成25年4月に一般社団法人として新たにスタートした奥多摩観光協会は、今年で3年目を迎えました。皆様には日頃より各種事業にご理解とご協力をいただき、大変ありがとうございます。

当協会では、昨年度に引き続き、各種事業を実施してまいりますが、今年は町が建設を進めていた「奥多摩の風はとのす荘」が5月にオープンいたしますので、各施設等と連携して町の観光PRを積極的に行い、大勢のお客様に来ていただくことができると考えております。また、近年の多様化する観光・アウトドア活動ニーズへ対応するため、町内の観光資源を活用した事業者の把握や情報収集に努め、これら事業者間が連携をして、様々なイベントや事業が展開できるよう、調査検討していきたいと考えております。まずはその先駆けとして、観光ガイドの会を中心として、当協会が主催している「奥多摩友

の会」の会員に向けたイベントの一つに、1泊2日の雲取山登山を企画し、森林セラピー事業を中心に観光ツアー等を展開している、一般財団法人おくたま地域振興財団との共同企画として開催いたします。

また、今年度は町の今後10年間の指針となる「第5期奥多摩町長期総合計画」がスタートし、観光産業の分野では「住民が元気になる交流観光づくり」「奥多摩ならではの地域産業の推進」「観光・産業づくりを推進する力の強化」を主要施策として、様々な取り組み内容が掲げられております。当協会におきましても、地域振興、観光振興等に役立てるよう各種事業を展開してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(一般社団法人奥多摩観光協会事務局長 河村 寿仁)

とっておきの山歩きガイド

鷹ノ巣山 (1736m)

奥多摩で鷹ノ巣山は、雲取山に次ぐ人気の山であり、この附近一帯は「御巣鷹山」と呼ばれていた。

1736mの峰頭を日原側では「鷹ノ巣山」、多摩川側では「入奥山」と呼び鷹狩のため、鷹に巣を作らせ鷹の子をとって将軍に献上していた。とくに、鷹の繁殖期には何人たりとも山へ入ることは禁止され、鷹番と称した役人が目を光らせていた。

この山への登山ルートは、幾つかありますが比較的楽な、峰谷～浅間尾根コースを紹介します。

奥多摩駅から峰谷行のバスで約35分、終点峰谷下車。しばらくは舗装道路を歩き、奥集落の浅間神社を目指します。神社の鳥居を右に見て、歩くこと30分。スギ林が広葉樹林帯に変わり、新緑や紅葉の頃には一段と美しい姿を見せてくれる。

5月下旬～6月上旬には、新緑とミツバツツジが迎えに来て、快適な尾根道が続く。やがて樹林帯を抜けワラビの群生地を過ぎると、一気に視界が広がってくる。避難小屋はもうすぐだ。小屋で一息入れ、防火帯を辿り約30分、鷹ノ巣山山頂である。

山頂からは、富士山、奥多摩三山、大菩薩峠が望まれ、冬には南アルプスの山々がパノラマを展開する。下山は最も楽で分かりやすいカヤノキ尾根～倉戸山コースを辿ることにします。山頂から、水根山方面へ進み石尾根縦走コースを経てカヤノキ山へ向かう。山頂から約1時間、左に水根沢へ下る道と出会うがさらに直進すること30分「カヤノキ山」(1485m)である。少し下ると、右手に峰谷へのノボリ尾根コースと出会うが、道標にしたがい倉戸山へと進む。明るい雑木林とヒノキの樹林帯のなかを約1時間、広葉樹林帯に囲まれた明るく広い倉戸山だ。木々が伸びたせいか、広いわりには展望はよくない。山頂から右へ進むと女の湯バス停方面だが、今回は山頂から左のコースを辿り、倉戸口バス停へ向かうことにします。広葉樹林帯を抜け、スギ、ヒノキの混生林に入りしばらく進むと左に大麦尾根「見はらしの丘」への道と出会う(現在通行止)。

さらに下るとヒクラ沢の上流部と思われる沢筋に猪のヌタバがあり、まもなく温泉神社に到着。世界的に有名なクライマー山野井さんの家を見ながら階段

を下ると車道に出る。車道を右に進むと、やや長い階段があり下りたところが熱海のバス停だ。車道を左に行き、車道沿いにしばらく進み、青梅街道に出た先が倉戸口バス停である。(平塚 翼次)

山里歩き・大氷川一周コース

奥多摩駅を出て左に狭い路地を行き、階段を上ると町の福祉会館があります。その先の道を左に上がり踏切を渡ります。上を見ると屏風岩が氷川の町を見下ろしています。

氷川小の裏側を通り過ぎると、奥多摩工業の工場敷地の中を通ります。奥多摩工業は会社設立時の社名を奥多摩電気鉄道といい、御嶽駅と氷川駅(現奥多摩駅)を結ぶ鉄道路線を作りましたが、国鉄(現JR)に買収され青梅線として開通しました。

工場を通り、しばらく杉山の中を進むと、石灰を運ぶトロッコが足元を忙しそうに通ります。鉄橋の下にはワサビ田があり、氷川小の子供たちが育てています。除ヶ沢にかかる橋を渡ったすぐ上に金比羅神社があります。今はがけ崩れで行くこともできませんが、30年以上昔には、氷川の人たちが毎月お参りに来てにぎわっていたそうです。

金比羅様を過ぎ、坂を上って道が二つに分かれるところに、庚申様があります。上の道は、安寺沢へのむかし道、下の道は除ヶ野、鍛冶屋の集落に行きます。除ヶ野の地名は除ヶ沢からきており、「よげ」とは場所が険しくて通行困難なところ、除ヶ野はその沢のそばにある野の意味だそうです。

除ヶ野を過ぎ、産土様(おぼすなさま)の先から町道を登ること約20分、安寺沢の集落に出ます。本仁田山へは最初の民家の横を登ります。安寺沢から鍛冶屋へは間伐作業用に作られた道が、通行できます。鍛冶屋の集落は地図上では地名は無く、屋号から来たものと思われます。昔、刀鍛冶がこの集落に来て、刀を作ろうとしたが、川上に石灰岩があり刀には適さないため、農機具を作るようになったそうです。鍛冶屋があった近くで家の造成をしたときに、赤くさびた金物や昔のお金が出たという話もあります。除ヶ野、安寺沢の町道は本仁田山への登山道となっています。(除ヶ野在住 小峰一郎)

～「四季つれづれ」その9～

「本仁田山の二人遭難」

2月1日、新聞の朝刊に「奥多摩の本仁田山で、男性登山者2名が死亡した。」との記事が載った。「1月28日に、本仁田山へ一緒に登山に出かけた男性2名が帰宅せず。1月31日、捜索していた青梅署山岳救助隊員が、岩場から転落死している2名を発見し収容した。」というものである。

私はすぐその遭難事故の情報を収集した。知り得た情報によると詳細はこうである。

1月30日、東京地方は天気予報どおり朝から雪が降った。奥多摩の山も白く雪化粧したが午後には止み雨となった。

都内に住む男性Kさん（70歳）の家族が奥多摩交番の山岳救助隊に捜索願を出した。Kさんは都内の「S山の会」という会に所属しており、同じ会のMさん（60歳）とふたりで、2日前の28日に本仁田山へ日帰り予定で登山に出掛けたが、今日になっても戻らないというものである。ふたりの登山経験は豊富でKさんは以前にも2回程本仁田山に登っている。一度は奥多摩駅から裏山に屹立する屏風岩脇を経由し、ゴンザス尾根に出て本仁田山に登り、下りはゴンザス尾根から花折戸尾根に入って鳩ノ巣駅に下山している。

山の仲間は、今回はその逆コースで鳩ノ巣駅から本仁田山に登り、奥多摩駅に下山するルートで登ると言っていたという。

午後になったの携帯電話のGPSによる位置測定の結果が出た。電波は長畑のアンテナが受信しており、アンテナから半径約3kmの区域だという。半径3kmといえば本仁田山頂までの南側が全部含まれるというアバウトなものであった。

31日早朝から捜索が開始された。山岳救助隊員9名が3個班に分かれて、まだ雪の残っている本仁田山南側の捜索に入った。

午後1時半ごろ、奥多摩駅のすぐ北側にある、屏風岩付近を捜索していた班の3隊員が、屏風岩から僅かに下った西側斜面の岩場で転落死しているふたりを発見した。

道のない急斜面の20m程の岩場の上の立木に、ダブルにして掛けたスリングが5m程垂れ下がっていた。

この岩場を降りようとしたのだろう、ふたりは岩場下の急

な土の斜面をさらに滑り落ち、岩場の上の立木から約40m下で止まっていた。Mさんが上で、その8m程下にKさんが倒れていた。現場からは真下に奥多摩駅が見え、奥多摩工業の音さえ聞こえる、駅から僅か500m程の所だ。

刑事課の実況見分の後、山岳救助隊によって収容されたが、このコースは東京都公園協会の、本仁田山に登る一般登山道としては指定されていない。踏みあとはあるものの言わばバリエーションルートと言えるだろう。そのバリエーションルートからも外れて岩場に出てしまった。下には氷川小学校や奥多摩の駅までが間近に見える。迷ったことを知りながらも、無理にも降りようとしたのだろう。あと500mで下山できたという、まことに痛ましい遭難死亡事故である。

なぜふたりして転落したのだろう。ザイルでも結んでいなければ考えられないような事故である。推理として成り立つのは、ダブルにして垂らした5mのスリングに掛まり、まずひとりが途中まで降りる。次いでふたり目が降りようとしたが何らかのアクシデントで転落。そして下の人を巻き込んでふたり一緒に落ちた。こうとでも考えなければ説明がつかない。ふたりとも死因は脳挫傷であった。

そしてさらに心痛むのは、ふたりの所属していた山岳会「S山の会」は1年程前、創立20周年であった。その記念祝賀会に私も招かれ、「奥多摩山岳救助の現場から」と題し、奥多摩における山岳事故の傾向とその対策を話させて戴いた。道迷いに起因する事故も多いことも話した、ふたりもその場におられたことであろうが、何とも私の力量不足も思い知らされた事故でもあった。おふたりのご冥福をお祈りしたい。合掌。

鳩吹けば応へる鳩の淋しかり くにを

(元 青梅警察署山岳救助隊 副隊長 金 邦夫)

むかしみちの昔話

惣岳の大蛇

むかし、むかし、シダクラ谷には大蛇がいるといわれておりました。

雷が鳴り、風雨のはげしいある晩、谷底からとどろき渡る大音響とともに、その大蛇が姿を現したのです。

そして、その晩のうちに、にぶく光る体をくねらせて、大量の土砂や数多くの巨岩を押し出しながら、多摩川の惣岳河原へとなだれこんでいったのです。

惣岳河原には、一夜のうちに大きな岩が所せましと転がり、瀬には荒い白波が幾重にも立つ「荒」ができて、赤土尾根向こうの流れに大ききうず巻く「淵」ができました。

この淵は大蛇のすみかとなり、一年中変わることなく、水をたたえるようになりました。

冬には、あちこちが凍りつき、この淵に氷が張っても、氷のまん中に丸い穴があいていて、大蛇が入りしたようです。

このあたりは、多摩川の上流なので、木材流しは一本流しでしたが、「荒」ができてからは、道所河原や水根沢あたりまで川一面に、木材が詰まるようになってしまいました。

また、「淵」は、いつもうず巻いていたので、ここはおひょうさん(流送夫)たちからおそれられる難所となりました。

そこで、水流鎮護のために、水神さまをお祀りして安全を祈り、大蛇のいるうず巻き淵には木材を流しこまないように気をつけたということです。

今では木材流しもなくなりましたが、「荒」と「淵」はむかしどおりで、四季折々の山かげを映しています。

隧道の屁

ちょっとむかしのこと、あるところにでけえ屁をひるじいさまがいた。

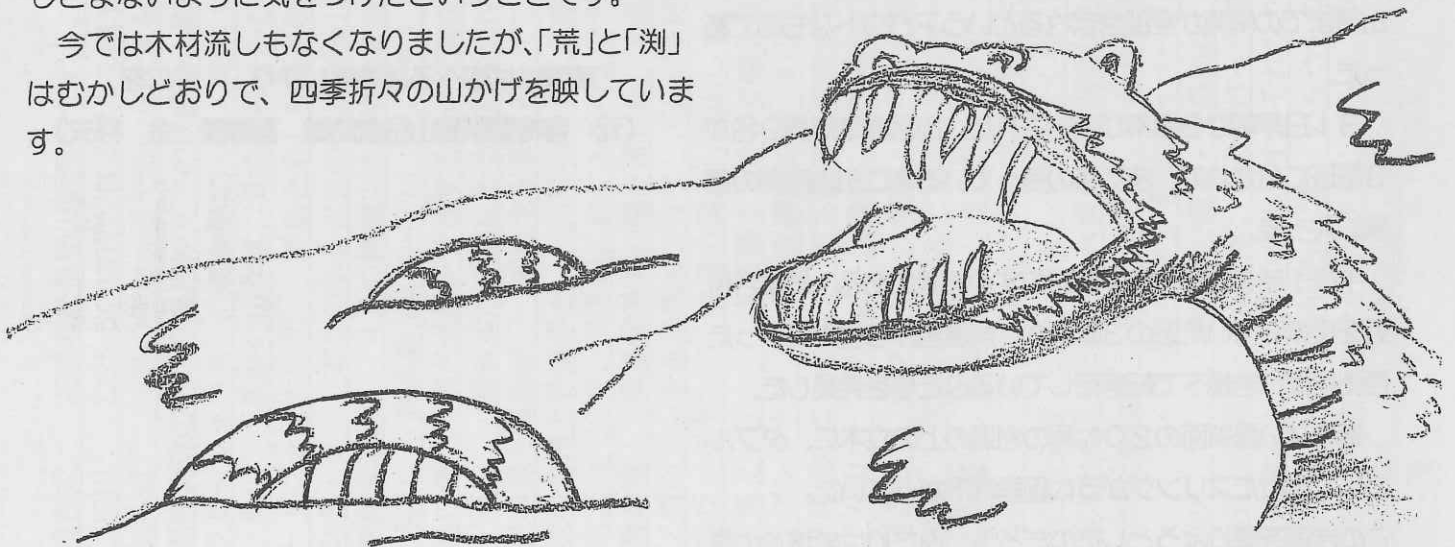
ある夜ふけのこと、親戚から急な沙汰があって、隣村まで出かけることになった。

提灯の明かりで夜道をたどったが、なにぶんにも道が悪く、危なっかしい足どりだった。

「そうだ、人の話じゃあ、ダムを造るのに新しい道ができたが、まだ通っちゃいけねえそうだ」「だけど、きっと近道にちげえなかんべ」と、ぶつくさ言いながら新道へ入っていくと、行く手にぽっかりと、でかい穴があいている。「ああ、これが隧道ちゅうもんだな」と、ひどく感心しながら、長く暗い隧道の中へ、おっかなびっくり入って行った。「ピシャー、ピシャー」と音をたててしたたる雫をよけながら、隧道のまん中まで来たとき「ブーウー」と大きな屁が出てしまった。

すると「ボカーン」という、とてつもない音が鳴りひびき、思わず「ウワー」と悲鳴をあげると、追っかけるように、また「ウワーン」という大音響に…。たまげたじいさまは走りだした。

そんなことがあってからか、隧道には、ばけものがいる、といううわさもたったが、やがて、新道をだれもが通れるようになってからは、隧道の怪音の正体の謎もとけ、だれもが安心して、隧道を通るようになったということだ。



イベント

目的の地 or コース

No.	タイトル	目的の地 or コース	開催日		募集人数	種別	所要時間
			月/日(曜日)	集合時間			
1	奥多摩・山開き式(自由参加)	奥多摩駅前大木戸稲荷神社 (8:00~9:00)	4月5日(日)	8:00	-	-	-
2	春一番の本仁田山	奥多摩駅~安寺沢~本仁田山~鳩ノ巣駅	4月8日(水)	8:10	25	登山	7時間
3	じっくりゆっくりに自然観察・大加林道	白丸駅~海沢~大加林道~登計~奥多摩駅	4月14日(火)	9:15	20	散策	5時間
4	旧青梅街道を歩く①東青梅駅~沢井駅	東青梅駅~二俣尾~軍畑駅~沢井駅	4月22日(水)	9:00	20	ハイキング	6時間
5	セラピーウォーク (当日受付) (町主催500円)	水川小学校庭~奥多摩むかしみち~奥多摩駅	4月29日(祝)	8:30	-	ハイキング	5時間
6	鷹ノ巣山 ~お巣鷹の森~ (健脚向き)	奥多摩駅~稲村岩~鷹ノ巣山~峰谷橋~奥多摩駅	5月1日(金)	8:05	25	登山	8時間
7	バードウォッチング ~オオノリ探し~	奥多摩駅~境橋~体験の森	5月11日(月)	9:00	20	散策	5時間
8	三ツドツケ (天目山) (健脚向き)	奥多摩駅~東日原~三ツドツケ (往復)	5月15日(金)	8:05	25	登山	7時間
9	旧青梅街道を歩く②沢井駅~鳩ノ巣駅	沢井駅~御岳~川井~古里駅~鳩ノ巣駅	5月20日(水)	9:00	20	ハイキング	6時間
10	川苔山~奥多摩の名峰~ (健脚向き)	鳩ノ巣駅~大根の山の神~大ダワ~川苔山~鳩ノ巣駅	5月28日(木)	8:05	25	登山	7時間
11	水源の森を訪ねて(山梨県)バスハイク~	奥多摩駅~バス~柳沢峠森歩き~バス~奥多摩駅	6月2日(火)	8:10	20	散策	6時間
12	七ツ石山~将門伝説の山~ (健脚向き)	奥多摩駅~鴨沢~七ツ石山~峰谷橋~奥多摩駅	6月8日(月)	8:10	25	登山	8時間
13	檜原都民の森から風張峠	武蔵五日市~都民の森~風張峠~山ふる~小河内神社前~奥多摩駅	6月19日(金)	8:00	20	ハイキング	6時間
14	倉沢の大ヒノキと倉沢林道を歩く	奥多摩駅~倉沢橋~林道(魚留橋)~集落跡~大樽~奥多摩駅	6月25日(木)	9:40	20	ハイキング	5時間
15	高水三山 ~畠山重忠と青沼神社~	軍畑駅~高水山~岩茸石山~惣岳山~沢井駅	7月8日(水)	8:15	20	ハイキング	6時間
16	涼を求めて百尋ノ滝	奥多摩駅~川乗橋~百尋ノ滝~川乗橋~奥多摩駅	7月16日(木)	8:05	20	ハイキング	6時間
17	棒ノ折山から黒山へ	川井駅~清東橋~棒ノ折山~名坂峠~川井駅	7月22日(水)	7:20	25	登山	6時間
18	夏鳥ウォッチング・三頭山野鳥観察コース	武蔵五日市駅~都民の森・鞘口峠~武蔵五日市駅	7月31日(金)	8:00	20	散策	6時間
19	奥多摩伝説芸能・獅子舞見学と周辺ハイク	白丸駅~元栖神社~鳩ノ巣・熊野神社~周辺ハイク	8月16日(日)	9:40	20	散策	6時間
20	レンジョウマとロックガーデン	御岳山駅~御岳山~岩石園~丹三郎~古里駅	8月21日(金)	9:30	20	ハイキング	6時間
21	奥多摩湖右岸・いこいの路	奥多摩駅~奥多摩湖~いこいの路~山ふる~小河内神社前~奥多摩駅	9月10日(木)	8:10	20	ハイキング	7時間
22	六ツ石山 ~雲取登山足慣らし~ (健脚向き)	奥多摩駅~水根~六ツ石山~三ノ木戸~奥多摩駅	9月15日(火)	8:10	25	登山	7時間
23	林道歩き 鋸山林道	武蔵五日市~神ノ戸岩~鋸山林道~奥多摩駅	9月25日(金)	7:20	20	ハイキング	7時間
24	雲取山(1泊2日) (22番参加者限定)	奥多摩駅~鴨沢~雲取山~雲取山荘~鴨沢~奥多摩駅	10/1(木)~2(金)	8:10	25	登山	2日間
25	奥多摩むかし道とセラピーロード	奥多摩駅~奥多摩湖~槐木~登計~奥多摩駅	10月6日(火)	9:10	20	ハイキング	5時間
26	三頭山 ~山の秋を満喫~ (健脚向き)	武蔵五日市駅~都民の森~三頭山~山ふる~小河内神社前~奥多摩駅	10月16日(金)	8:00	25	登山	7時間
27	袖人が歩いた峠を訪ねる	白丸駅~小樽峠~鳩ノ巣駅	10月20日(火)	9:05	20	ハイキング	6時間
28	大塚山から御岳山経由で日の出山へ (健脚向き)	古里駅~大塚山~御岳山~日の出山~つるつる温泉~武蔵五日市駅	10月29日(木)	8:00	25	登山	7時間
29	御前山~檜原村から小河内峠越え~ (健脚向き)	武蔵五日市駅~藤倉~小河内峠~御前山~境橋~奥多摩駅	11月6日(金)	7:20	20	登山	7時間
30	大岳山~晩秋の山歩き~ (健脚向き)	武蔵五日市駅~白倉~大岳山~御岳神社~隨身門	11月10日(火)	7:20	20	登山	6時間
31	山ふる蕎麦打ち体験~昼食付~	奥多摩駅~山ふる蕎麦打ちとハイキング	12月4日(金)	9:10	20	登山	6時間
32	初冬の倉戸山	奥多摩駅~女の湯~倉戸山~大妻代~奥多摩駅	12月15日(火)	8:10	25	登山	6時間
33	御岳山初詣ハイクと氷の花・シモバシラ	ケープル下バス停~御岳山表参道~御岳神社~神苑の森~古里駅	1月7日(木)	8:10	20	ハイキング	6時間
34	バードウォッチング ~冬の野鳥探し~	奥多摩駅~コース秘密 (おたのしみ)	2月17日(水)	8:10	20	散策	5時間
35	早春に歩く・岩茸石山	川井駅~熊沢林道~八桑~岩茸石山~惣岳山~沢井駅	3月18日(金)	8:55	20	ハイキング	6時間
36	早春の海沢三滝	白丸駅~海沢三滝~大樽峠~鳩ノ巣駅	3月29日(火)	8:35	20	ハイキング	6時間

※※

※

※

※※

※

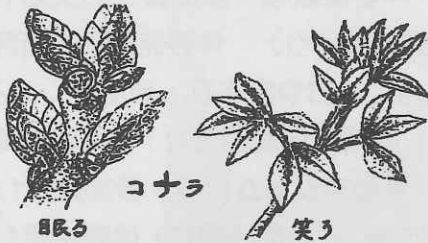
※

1. 山開き式 恒例の安全登山祈願祭です。この1年の無事を祈願し、お神酒で献杯。9時半には終了しますので、お近くの山へお出かけください。
2. 本仁田山 1225mの山頂から多摩川を眼下に見下ろす見晴らしの良い山です。新年度のスタートとして、手ごろな山歩きが楽しめます。
3. 大加林道 4月の大加林道で春の息吹きをお楽しみください。アブラチャヤンやフサザクラ、そしてマムシグサやウラシマンソウも。
4. 旧青梅街道① 三田氏ゆかりの乗願寺、彫刻の住吉神社、足腰の七兵衛地藏、金剛寺、臨川庭園、黒地藏、薬師堂、古民家、酒蔵見学等々、見所満載。
5. セラピーウォーク 奥多摩で一番人気の「奥多摩むかしみち」は癒され度満点の旧い道です。500人以上の町内外の人々と共に歩きます。参加費 500 円。
6. 鷹ノ巣山 新緑の山歩き。日原稲村岩から登る 1737mは、それなりに厳しい山。山頂で味わう達成感が魅力です。
7. パードウォッチング 野鳥を楽しむ最高の時期です。ミソザイの美しい声、オオトルリやキビタキの声を聞きながら至福の時をお過ごしください。
8. 三ツドック またの名を天目山 (1576m)。仙元峠を挟んで蕎麦粒山と並ぶ都県境の名峰です。次回は蕎麦粒山の予定です。
9. 旧青梅街道② 4月の続編です。御嶽菅笠の道から玉堂旧宅、国道で最短の橋を渡り、神塚から歴史ある山里・古里、鳩ノ巣の旧道を歩きます。
10. 川苔山 奥多摩三山の一つ、どっしりとした風格ある山、一度ならず四季折々に楽しめる山。プロからアマまで、若年層にも人気があります。
11. 水源の森 都水道局が管理する森に快適な散策路ができました。心癒される森です。(参加費 2,000 円)
12. セツ石山 雲取山の手前にある伝説の山は標高 1757m。まだ新緑が楽しめ、日帰りで行く山としては満足度満点の歩きがいがあります。(参加費 2,000 円)
13. 都民の森と風張峠 花も木も草もそして野鳥たちも生き生きとした森を楽しみ、風張峠経由で山のふもと村まで歩きます。
14. 倉沢の大樹と林道歩き 山中の旧倉沢集落には、人々の生活の跡と倉沢神社旧跡があります。倉沢林道は、植物の宝庫。もちろん鳥も蝶も楽しめます。
15. 高水三山 今、高尾山に次ぐ人気の山です。山歩きだけでなく畠山重忠ゆかりの文化財と青沼神社の彫刻が見所。岩茸石山は奥多摩町境界の山です。
16. 百尋の滝 奥多摩最大の滝と言われ、水量の多い時期に訪れます。滝の周囲は、マイナスイオンに包まれ癒され度満点です。
17. 棒ノ折山 埼玉県境まで行き、ゴンジリ峠～黒山～名坂峠へと下ります。ここも源氏の名将・畠山重忠が通ったとされる古道です。
18. 夏鳥ウォッチング 猛暑の街から脱出して、涼しい沢筋で野鳥の声に耳を傾け、至福の時間を過ごしませんか。三頭山には野鳥観察施設があります。
19. 獅子舞とハイク 奥多摩で8月の日曜日には、まさに伝統芸能だ。今回は、白丸と鳩ノ巣の2か所の獅子舞を鑑賞。あわせて周辺を歩きます。
20. レンゲシヨウマ 人気度御岳山随一の花を真っ盛りの時期に訪ねます。そして清涼度満点のロックガーデンの中を歩くことと綾広の滝を迎えてくれます。
21. 奥多摩湖いこいの路 都水道局が管理する奥多摩湖右岸の散策路を周遊します。湖畔を渡る清風に初秋を感じてください。
22. 六ツ石山 この山は、雲取登山の通過点的存在ですが、見晴らしも良く、親しみやすい山として隠れた人気の山です。雲取登山の前哨戦です。
23. 林道歩き 新メニュー。檜原・神戸岩を經由して大入林道から峠越えの道・鋸山林道を奥多摩駅まで歩く長町場です。意外な発見をお楽しみください。
24. 雲取山 深田久弥が選んだ日本百名山の一つ。会員待望の雲取山。体力も気力も満を持して挑戦してください。(No.22の参加者が対象：参加費 14,000 円)
25. むかし道 奥多摩むかし道+登計セラピーロードのセットハイクです。今回は、奥多摩湖から下る比較的楽な足に優しく、自然も文化財も楽しめます。
26. 三頭山 秋、貴重なブナの美林を残す三頭山に登ります。1528mの秋をお楽しみください。
27. 仙人が歩いた峠 地元の人しか通らなくなった小檜峠へ行き元気なコナラの巨樹とご対面。
28. 大塚山から日の出山 大塚山から御岳山を經由して日の出山、つるつる温泉に下山するたっぷりの山歩きです。
29. 小河内峠・御前山 新コースです。小春日和を期待して檜原村の南斜面を登るぽかぽか登山。初冬の小河内峠落ち葉を踏みしめて行く紅葉の御前山は魅力いっぱいです。今回は秋バージョンに方向転換しました。
30. 大岳山 奥多摩の盟主・大岳山は、深田久弥氏に選ばれた名峰です。頂上は初冬ですが、カエデ類の紅葉が楽しめるコースを歩きます。
31. 蕎麦打ち体験 弁当不要。自分で打った蕎麦を食べ、自然も文化財も豊富な山のふもと村トレイルコースを歩きます。(参加費 1,200 円)
32. 初冬の倉戸山 初冬の登山ですがそれなりの装備が必要です。比較的安全度の高い山を選びました。
33. 初詣ハイク 新年登山には、いくつもの発見があります。氷花・シモバシラや太占神事の結果。運が良ければ黒曜石も。初詣のおみくじにもご期待を。
34. パードウォーク ジョウビタキ、アトリ、ホオジロ、ヒレンジャク、キレンジャク冬は樹木に葉が無いので探しやすいです。
35. 早春に歩く 岩茸石山への道は急登ですが、早春に咲くアブラチャヤンやダンコウバイの黄色い花が一番告げてくれます。
36. 海沢三滝 いつもと歩く時期を変えてみました。足もとの小さな花にも目を向けて見てみてください。早春の山歩きが好きになります。

奥多摩樹木雑考

“山眠る”から“山笑う”へ

奥多摩海沢の野に、カタクリが早春のかがやきを見せている頃、山の樹々は多くは冬の眠りから覚めきれずに冬の芽をかたく閉ざしています。それでも春雨による潤いとともにも梢の冬芽はふくらみ、張りを増しながら開き始めます。芽が“張る”ことで



“春”という言葉が生まれたとか。芽の開き方にも急ぐものとゆったり構えているものがあり、エゴノキは気が早く、茶褐色の星状毛（細かい星形の毛）でおおわれた冬芽が開いて浅い緑の若葉が顔を出す頃、コナラやくヌギはまだ冬芽を芽鱗（冬芽を包む鱗片）で包んだまま眠っています。

やがてコナラの冬芽も開いて若葉の顔を出し、くると下向きに反転した形で伸びてくる若葉は銀色の細毛でおおわれていて、その美しさは、あたりの樹木の中でもきわ立っています。樹々の若葉の緑は、同じ緑であっても微妙にちがう色合いを見せています。特徴のある色合いとしては、コナラのほか、イタヤカエデの若葉の紅色（イタヤカエデでは秋のもみじの季節、黄色のままで紅くなりませんが…）、シロダモの若葉をおおう黄褐色の絹毛などがあります。奥多摩の山には自生していませんが、東海地方から西の四国、九州に自生しているカナメモチ（アカメモチ）の紅い若葉は、植栽されているもので、皆さんもご周知のことでしょう。若葉が鮮やかな色を帯びたり、毛でおおわれたりするのは、紫外線から若葉を保護するためとの説もあります。

色合いの異なる若葉の競艶、そのはざまに、アブラチャンやダンコウバイの黄色の花が、春の陽光をまとめて点在する光景は、まさに山が笑っている姿といえます。合わせて足元では野の花が、思い思いのいのちの美しさをみせているのを見て、明治から昭和初期にかけての文豪徳富蘆花はその著書の中で、「何ぞ桜花に狂せんや」と書いています。

（橋上 一彦）

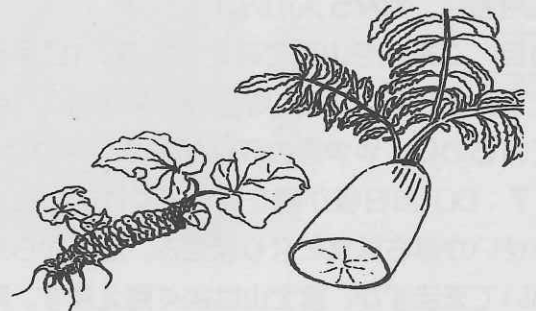
奥多摩食文化

奥多摩郷土料理の作り方

（海沢ふれあい農園たまものより）

「ワサビの粕漬け」材料（ワサビ 2 kg、酒粕 1 kg、塩 100g、砂糖 200g、水あめ、大さじ 2 杯）作り方 ①酒粕は日本酒で溶いておく。②わさびを薄く切って荒みじん切りにする。わさびの黒くなったところは取り除き、根っこの太いところは細くきってから。③大きなボールに②を入れ、塩を振り入れて混ぜ、手で力を入れてもむ。よくもめてくると水がたくさん出て細かい泡が立ちなめらかになってくる。④よくもめたら、おにぎりを握る要領で水を切る。細かいものはざるに木綿布をしいて漉してしぼる。⑤さらに手でしぼりながら、混ぜ鉢（大きなボール）にいれていく。⑥砂糖、水あめ、酒粕 1/3 量を入れ、酒粕の玉が残らないように全体を混ぜていく。途中で残りの酒粕を 2 回に分けて入れて、丁寧に混ぜる。⑦保存容器に入れ、常温で 4～5 日置いてから食べるとおいしい。

「大根のしょうゆパリパリ漬け」材料（大根 1 kg、



酢 150cc、砂糖 200g、醤油 200cc、鰹節 1 袋 5 g、早煮こんぶ 1 本～1.5 本、根ショウガ少々、鷹の爪少々、本だし 10g）

作り方 ①大根 いちょう切り、こんぶ 細切り、根ショウガ せん切り、②①をボールで混ぜておく。③酢・砂糖・醤油・鷹の爪・根ショウガ・本だしを混ぜて煮立てる。熱いうちに、ボールの食材にかける（1 回目）。④ボールが冷めたら、汁を鍋にとり、また煮立てて材料にかける（2 回目）。⑤再びボールが冷めたら、汁を鍋にとる。今度は鰹節の混ぜ汁を煮立てて、ボールにかける（3 回目）。冷めたら出来上がり。

（大澤 新次）

ガイドだより

～ またまた冬の雲取山 ～

2015.1.27～28 雲取山へ行って来ました。

同行者：男性3名、女性2名の5名。

一日目 小雨の中、自家用車で鴨沢へ。村営駐車場までの道がやや遠まわりになりました。予想通り、雨は止みました。小袖乗越登山口7:45 登山開始。

足下は氷でカチカチ。即アイゼン装着。風もなく快適な登山日和です。堂所は、一面の雪に覆われています。小休止。坂の途中、唯一富士山が見られる所…、見えました。セツ石山を巻いてブナ坂へ。足下には雪があります。水も枯れています。12:20 ブナ坂へやっとこ着きます。アイゼンの為か3人の足にマメが出来て破れてしまいました。手当てOK! 足がつった人もいます。不摂生か、加齢の為か、両方でしょう。小雲取山へは直登です。避難小屋を過ぎ15:20 頂上です。雲取山荘への道はついているけど雪はやや深く、夏とは違い、斜面は急に感じます。15:50 雲取山荘到着。今日の山荘の利用客は、我々5人のみ。

二日目 ご来光を山頂で迎える為6:10 早目の出発です。6:50 山頂。周囲の山々は明るく姿を見せているのに、やや雲の取れが遅く、待つこと10分、7:00 お日様が顔を見せてくれました。風がないせいか寒さは気になりません。足下から薄い雲が湧いて来ますが、富士山はよく見えます。南アルプスは特によく見えます。避難小屋は空です。7:10 下山開始です。足下も悪い状態ではありません。足下から湧き上がる雲、感じない程度の風によって、とても綺麗です。時々道に被さる霧氷の小枝をそとなでて歩きます。振り返ると飛龍の山々が暖かな陽を一杯に受けて、色濃く連なっています。8:00 奥多摩小屋8:45・ブナ坂9:10 セツ石山頂。富士山はまだ見えます。セツ石小屋まで尾根を下ります。石尾根分岐へ。此处からは藪の中を下ります。9:35 綺麗なトイレになったセツ石小屋で小休止。堂所を過ぎ、廃屋付近を過ぎればアイゼンはいらなくなるけれど、まだまだ日陰は凍っています。慎重に慎重に歩を進めます。12時前小袖乗越登山口帰着。楽しい山行でした。同行者に感謝!(西原潤治)

施設案内

～ おくたま海沢ふれあい農園 ～

平成27年度のイベントは

通年*ピザ作り・参加費：1,500円(ピザは昼食)

体験時間：2時間(午前がおすすめ昼食に)

*わさび収穫&わさび丼・参加費：1,800円

体験時間：2時間半

7～9月 *野菜収穫・参加費：1,000円

(野菜持帰り) 体験時間：1時間半

11～12月 *おやき作り・参加費：1,200円

(1個試食,5個持帰り) 体験時間：2時間

12月 *ゆずジャム作り・参加費：1,500円

(瓶ジャム2個持帰り) 体験時間：1時間半

1～3月 *みそ作り・参加費：2,000円

(2kg持帰り) 体験時間：1時間半

電話・FAX 0428-85-8685

ホームページ 「ふれあい農園」で検索

一登山・ハイカーの方々へ

◎登山道状況(3/30現在)

- *雲取山 大ダワ林道通行止め：日原林道～富田新道分岐は一部危険箇所あり、三乗ダルミ～雲取山荘の巻き道は足場が悪い。日原林道～唐松谷林道は、途中の棧橋が崩落のため、通行注意!
- *三頭山 風張峠～山のふるさと村間の登山道は、峠下に危険箇所あり一部通行止め(迂回路あり)
- *蕎麦粒山 仙元峠～踊平北の巻き道、通行注意。
- *御前山 境橋～トチノキ広場の栃寄沢のルートは登山道崩壊で通行止め。林道を通行する。
- *川苔山 細倉橋～百尋ノ滝迂回路経由で通行可。踊平～獅子口小屋跡は、土砂崩落の為通行止。大ダワ～足毛岩間登山道が、崩落の為通行止。大ダワから北東方面に向かう登山道は、幅員の狭い箇所などがあるため通行注意。
- *大岳山 大滝～馬頭刈尾根、木橋老朽化で通行止。
奥多摩ビジターセンターHPより抜粋

発行 奥多摩観光協会

住所 198-0212 奥多摩町氷川210

電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789

編集 名人達人・観光ガイドの会